



●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

▲注意 …取付けを誤った場合に使用者などが中程度の傷害、軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲注意

●吊込み後、本体をゆすって外れないことを確認してください。吊込みが完了していないと、本体が脱落するおそれがあります。

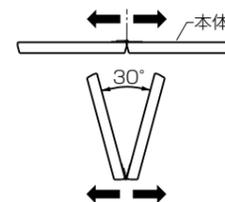
■本体の開閉操作上のお願い

本体を開閉する際は、下記事項を守って操作してください。

●本体をフラットのまま移動させます。

●30°の角度で本体が一時固定するようになっていきますので、この状態で移動させます。

※角度が30°未満の状態では移動させないでください。この場合、動きがギクシャクしたり下部のローラーがレールから外れたりする場合があります。



■取付け上のお願い

●枠取付けの際は、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を確認してください。

●造作材・建具枠を取付ける時は、必ず接着剤(現場手配)を併用してください。かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤(現場手配)を塗布してください。

●現場で使う接着剤は、「F☆☆☆☆」又はノンホルムタイプを使用してください。

●本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれたりする場合があります。

●各部材のガイド穴にゴミが入らないようにしてください。

●本製品の組立て・取付け時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や、枠の垂下がり・ゆがみなどの原因となります。(本説明書内で「現場手配」と記されている場合は除きます。)

●組立てねじは、縦枠とねじ頭が面一になるまで締め込んでください。但し、叩き込まないようにして下さい。保持力低下の原因となります。

●壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから取付けしてください。

●造作材・建具枠と柱・間柱・まぐさとの間には必ずすき間をつくり、かい木を入れてください。

●造作材・建具枠をコンクリートやモルタル(床面)に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に、必ず防水処理をしてください。

●造作材・建具枠の下地材及び、かい木には、必ず乾燥材(含水率20%以下)を使用し、湿潤材は使用しないでください。

●枠の組立て後、揺らす・ねじれ・引張りなど無理な力を加えないでください。破損の原因になります。

●床材とツバ付薄沓すりのすき間は5mm以内にしてください。ただし、キャスターや車いすなどの荷重がかかる場合は、すき間をあけないでください。ツバ材の取付けは、ハンマーなどで強くたたき込まないでください。

●枠は倒れ、傾き、たいこ、つぶみ、ねじれがないように取付けてください。片引枠の場合は、中縦枠の施工にご注意ください。吊込み後、本体とのすき間・干渉の原因になります。

●納品時に各部材・部品を検品してください。万一製品に不具合があった場合は、必ず取付け前にお買い求め店までご連絡ください。(施工後の色調・不具合・キズなどによる交換はできません。)

●本体は落下させたり、立てかける時に衝撃を与えないでください。本体部品が損傷し、開閉に支障をきたす原因になります。

●梁又はまぐさが軽量鉄骨の場合は、ねじ保持力が弱いので直接固定しないでください。必ず枠と軽量鉄骨の間に木枠を入れて取付けしてください。

●鴨居取付けねじの締めすぎにご注意ください。上レールを変形させると本体の動きが悪くなる場合があります。本体吊込み時に動きが悪い場合は、ねじをゆるめてください。

●フラット下レールを固定する床(下地)は、段差やすき間がないように仕上げしてからレールを固定してください。フラット下レールや埋込下枠を取付けるねじは、締めすぎないようにしてください。フラット下レール/埋込下枠が変形し、本体開閉不具合の原因となります。

●取付け時の建具養生などは、ダンボール、ミラーマットなどを使用し、粘着力の強いテープ(ガムテープ、養生テープなど)を長い時間建具表面に直貼りしないでください。テープを剥がす際、表面シートを傷めたり、またテープそのものの粘着剤が表面に付着したまま残ることがあります。

●本製品は上吊方式のため、梁又はまぐさで重量を受けますので、本体重量に耐える断面の梁又はまぐさをご使用ください。上枠及び、上レールの垂れ下がり原因になります。

間口	本体重量	梁・まぐさの断面寸法(幅×高さ)
6尺	50kg	105mm×180mm以上
9尺	75kg	105mm×300mm以上
12尺	100kg	105mm×360mm以上

●枠組立て前に鴨居のレールに吊車を挿入してください。吊車の入れ方を間違えると本体の吊込みおよび、建付け調整ができません。

●ガイドローラーを圧入する際は、樹脂部に当て木を使用してください。ガイドローラーの破損・変形により、開閉に支障がでるおそれがあります。

●本体吊込みの際は、ガイドローラーが下レールに入っていることを確認し、ガイドローラーで枠や床面などにキズを付けないようにしてください。

●フリータイプの時に、本体を折った状態で向かい合わせになる本体それぞれに把手を取付けしないでください。把手同士が干渉してキズが付く原因となります。

●ミラータイプの本体は、1つの枠の中に1枚のみとしてください。

●本体の把手に重量物をぶらさげないでください。把手が壊れ落下するおそれがあります。

●運搬・加工の際は、キズ付かないように取扱ってください。

■本体保管上のお願い

●本体のソリ・ねじれ防止のため、下記場所に置いたり、保管しないでください。

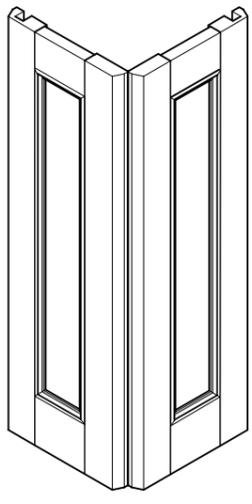
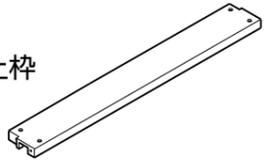
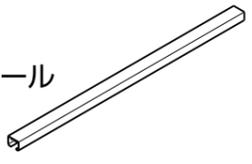
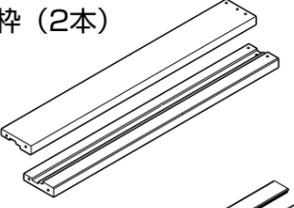
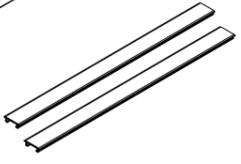
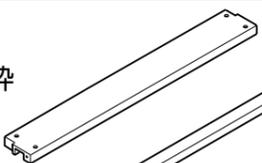
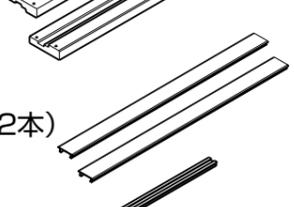
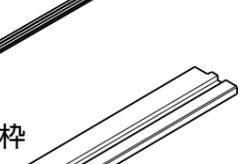
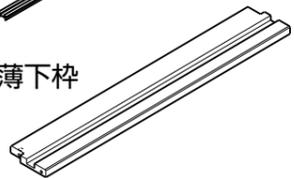
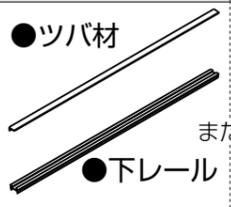
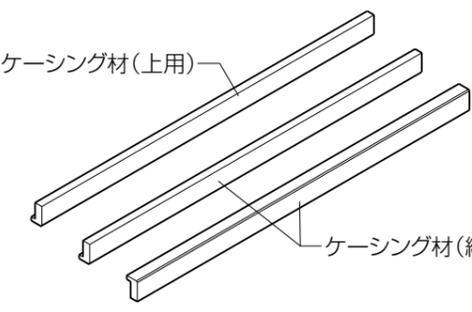
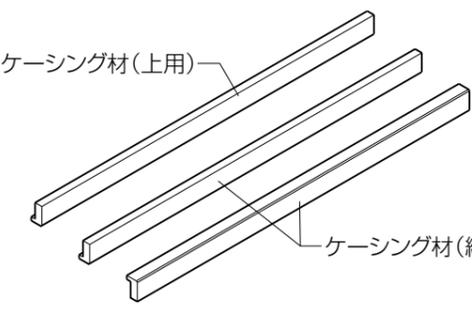
・直射日光の当たる場所 ・昼夜などで温度差の激しい場所 ・湿気の多い場所

●本体を長期間保管する場合は、寝かせた状態で保管してください。立て置きでの保管はソリ・ねじれなどの原因になります。

※建築工事中は、本体を養生・保全のため取外しておき、取付け完了後に吊込むことをおすすめします。

■部品・部材の明細

■部材の明細

折れ戸本体	3方枠	4方枠	3方枠用下枠		
<p>●クローゼット本体</p> 	<p>●上枠</p>  <p>●上レール</p>  <p>●縦枠 (2本)</p>  <p>●戸当り (2本)</p> 	<p>●上枠</p>  <p>●上レール</p>  <p>●縦枠 (2本)</p>  <p>●戸当り (2本)</p>  <p>●下レール</p>  <p>●ツバなし薄下枠</p> 	ツバ付薄下枠	埋込下枠	フラット下レール
			<p>●ツバ材</p>  <p>●下レール</p>  <p>●ツバ付薄下枠</p> 	<p>または</p>  <p>●埋込下枠</p> 	<p>または</p>  <p>●フラット下レール</p> 
<p>ケーシング材(上用)</p>  <p>ケーシング材(縦用)</p> 					

■本体用部品

	ガイドローラー	把手セット (ねじ付)	ガイドローラー 固定金具
W07-08	2	1	1
W12-13-16-18	4	2	2
W24-26-27	6	3	3
W34	8	4	4

■3方枠・4方枠用部品

	皿小ねじ M4×50 (枠組立て用)		トラスタッピンねじ φ4×60 (上枠躯体取付け用)	DNビス (皿木ねじ) φ3.8×50 (枠取付け用)	ワンタッチ吊車	本体召し合わせ部品	本体召し合わせ部品 固定ねじ トラスタッピンねじ φ3.5×16
	3方枠	4方枠					
W07-08	4	8	4	8	2	—	—
W12-13-16-18	4	8	7	8	4	2	4
W24-26-27	4	8	9	8	6	4	8
W34	4	8	11	8	8	6	12

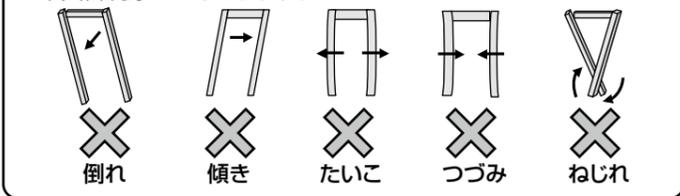
■下枠用部品

	トラスタッピンねじ φ4×50 (つば付き薄下枠組立て用)	皿タッピンねじφ4×18 (フラット下レール取付け用)	フラット下レール 端部ピース	皿木ねじ φ3.5×20 (埋込下枠取付け用)	埋込下枠 端部ピース
つば付き薄下枠W07~W34	4	—	—	—	—
フラット下レールW07~W18	—	7	2	—	—
フラット下レールW24~W34	—	13	2	—	—
埋込下枠W07~W18	—	—	—	3	2
埋込下枠W24~W34	—	—	—	5	2

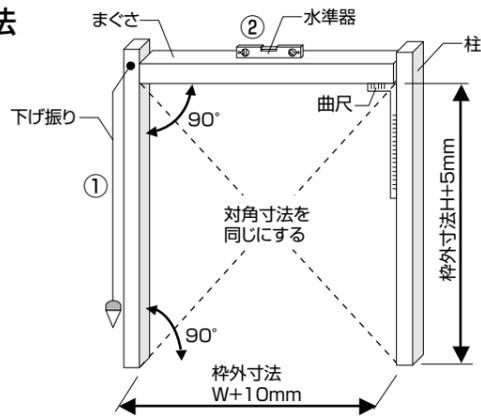
■開口部の作り方

- ①下げ振りを使って、柱が垂直になるように取付けてください。
- ②水準器・曲尺を使って、まぐさが柱と垂直で、水平になるように取付けてください。

※柱、床、まぐさの水平・垂直がでていないと、枠が下図のようになり、不具合現象につながります。



●開口寸法

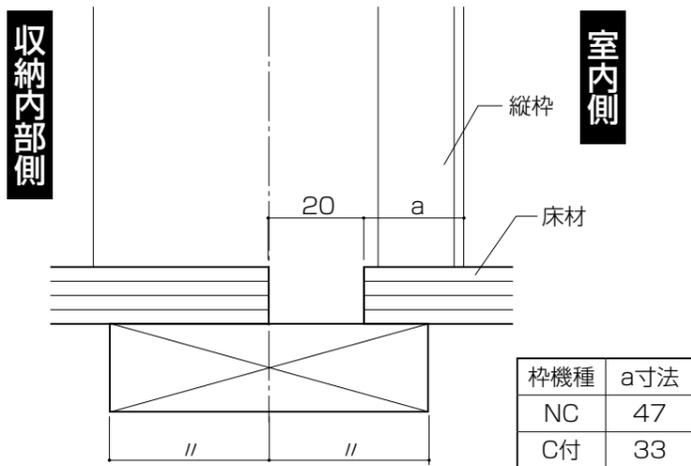


■2床張り位置

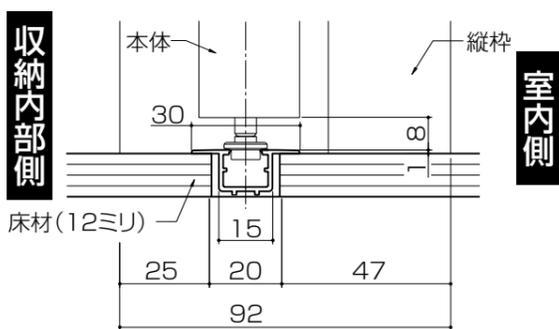
■床先張り(枠後付け)

【埋込下枠を使用する場合】

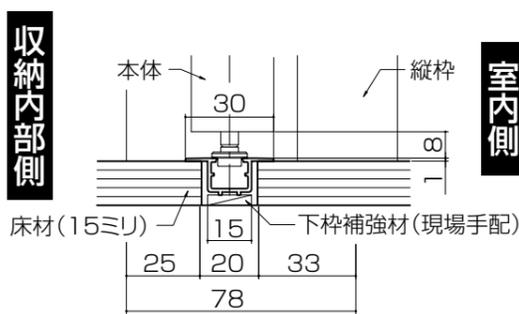
- 床材間に埋込下枠が入りますので、室内側縦枠木口からa寸法内側の位置に20mmあけて、床材を張ってください。
- ※床材の間口寸法(20mm)が大きすぎたり狭すぎると、床のすき間が見えたり埋込下枠が入りにくい原因となります。



【ノンケーシングタイプ】



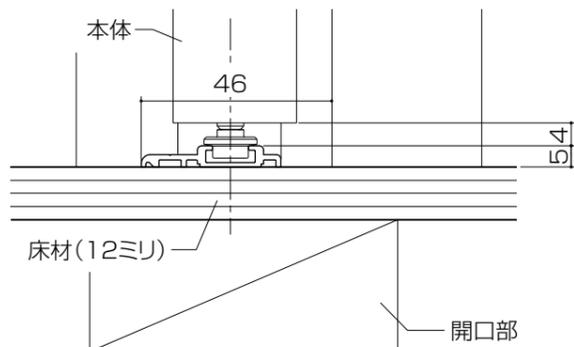
【ケーシング付きタイプ】



■床載せ納まり

【フラット下レールを使用する場合】

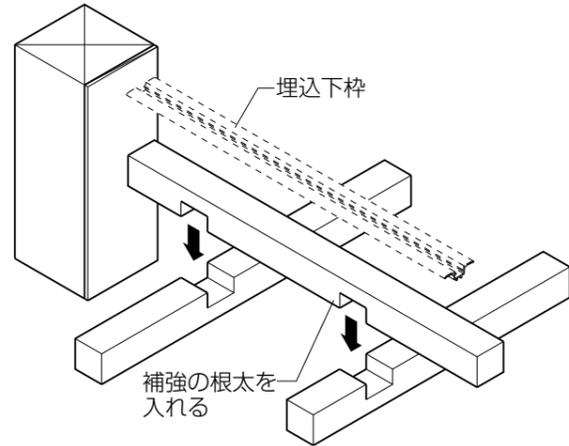
- 床材を張ってから枠を取付けてください。
- ※床材をあけて張る必要はありません。



■床の張り方

1下枠下地の確認

- 枠材は捨て張り合板の上に施工するか、根太張り工法の場合は下図のように根太を入れて補強してから施工してください。下枠の破損や本体開閉不具合の原因となります。

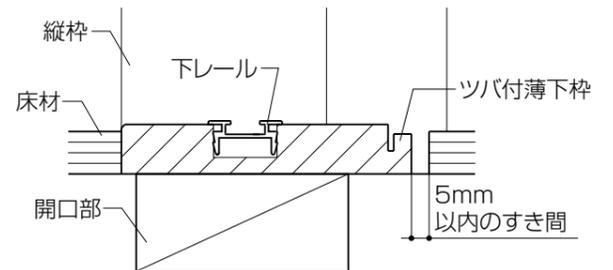


■床後張り(枠先付け)

【ツバ付薄下枠を使用する場合】

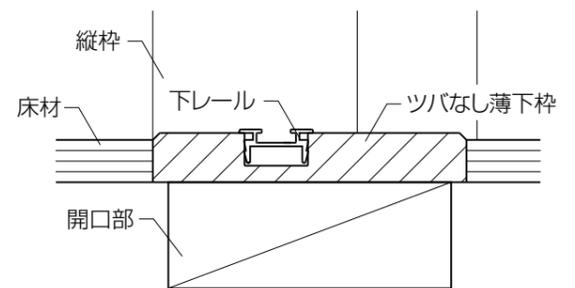
- 枠取付け後、下図のように床材を張ってください。

●お願い●
※床材とツバ付薄下枠のすき間は5mm以内にしてください。ただし、キャスターや車いすなどの荷重がかかる場合は、すき間をあけないでください。



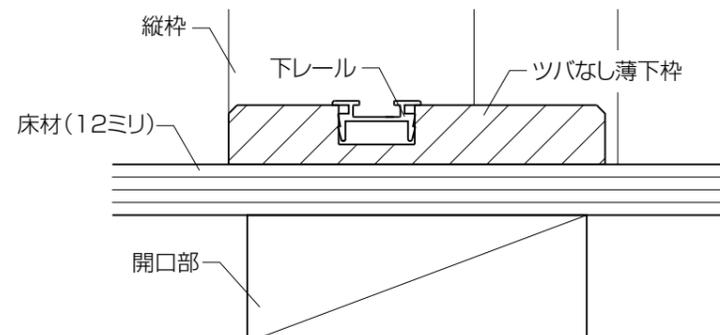
【ツバなし薄下枠を使用する場合】

- 枠取付け後、縦枠・薄下枠にそって床材を張ってください。



【ツバなし薄下枠を使用する場合】

- 床材を張ってから枠を取付けてください。
- ※床材をあけて張る必要はありません。



■取付け順序

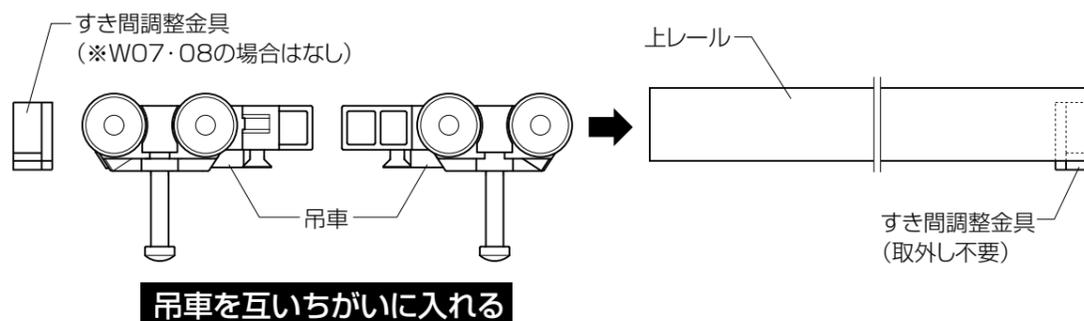
1 枠の組立て

①上レール端部(左右)に付いているすき間調整金具を片側のみ取り外し、吊車を互いちがいの向きにして上レールに入れてください。

※W07、08の場合は片側にしかすき間調整金具が付いていないため、取り外す必要はありません。

②吊車を上レールに入れ終わったら、すき間調整金具を元通りに取付けてください。

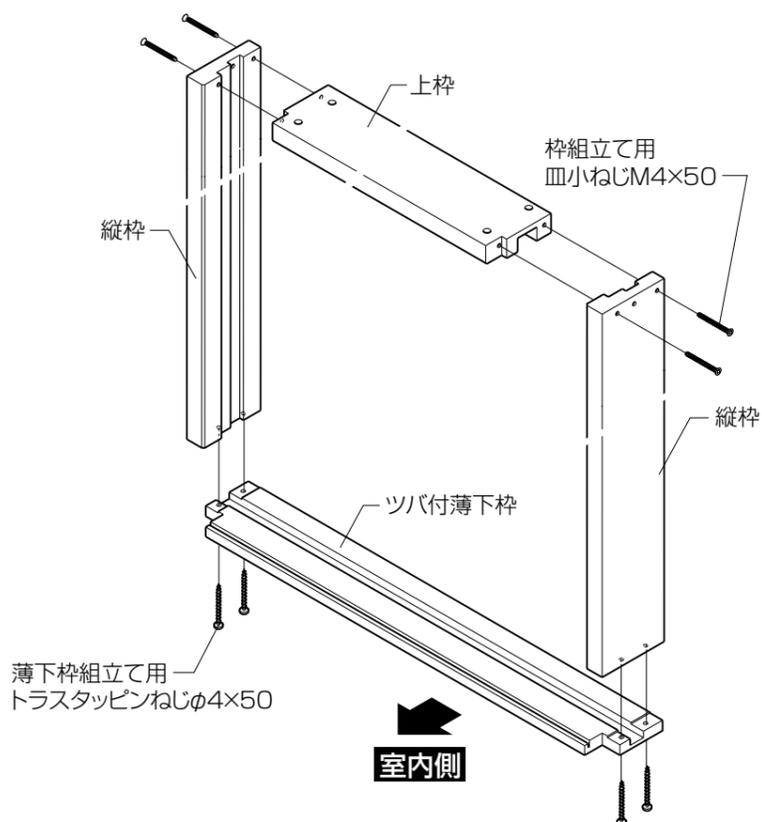
お願い
※枠組立て前に上レールに吊車を挿入してください。
吊車の入れ方を間違えると本体の吊込みおよび、建付け調整ができません。



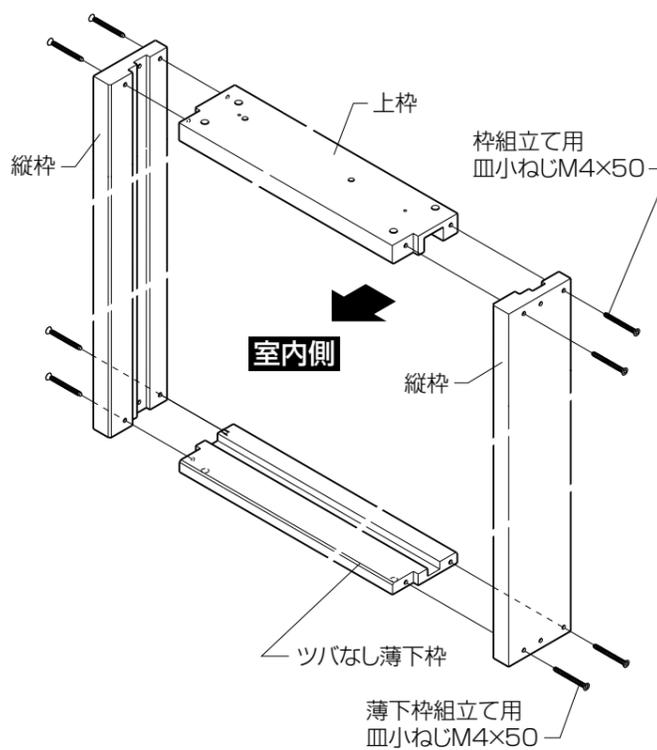
吊車を互いちがいに inserる

③下図のように各部材を組合せ、同梱のねじで固定します。

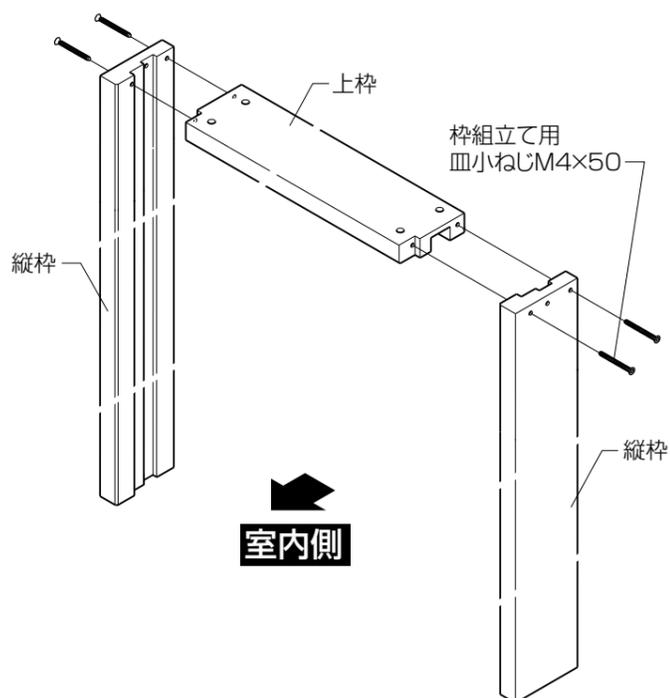
【ツバ付薄下枠を使用する場合】



【ツバなし薄下枠を使用する場合】



【埋込下枠またはフラット下レールを使用する場合】



2 枠の取付け

①組立てた枠を開口部に入れます。ここでケーシングタイプの場合は、縦枠にケーシングを差込みます。

枠の固定位置を確認します。

※ケーシングの足は設定が限られており、後で調整することができません。

このため、位置出しは確実に行ってください。

※ケーシングは、位置出しのためですので、固定はしないでください。

②下枠・上枠の水平を確認してから、縦枠の①を仮固定してください。

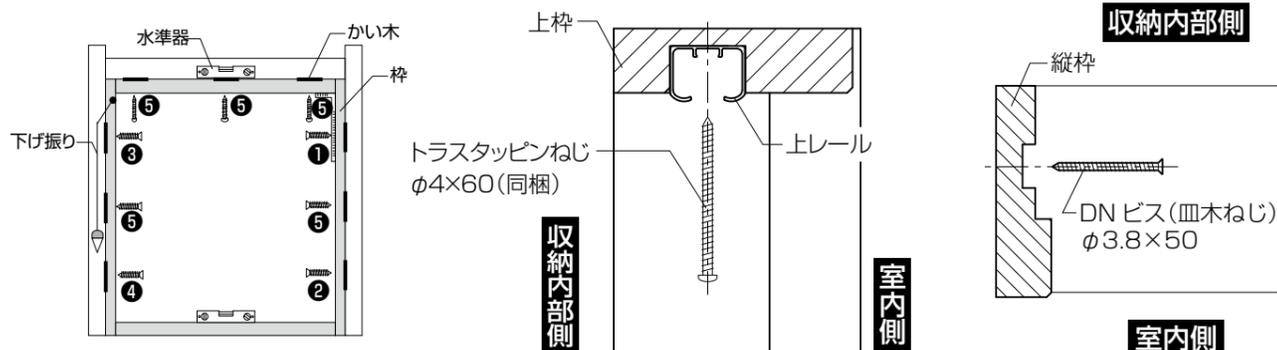
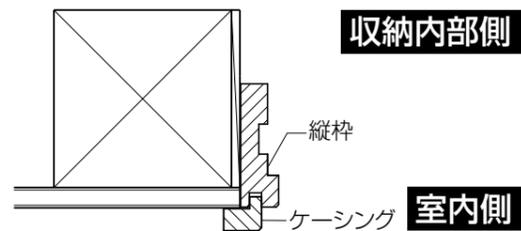
③下げ振りを使って垂直・倒れないことを確認してから、縦枠の②を仮固定してください。

④水準器で下枠・上枠の水平を確認してから縦枠の③を仮固定してください。

⑤下げ振りを使って垂直・倒れないことを確認してから、縦枠の④を仮固定してください。

⑥枠の水平・垂直を再度確認して、上下、左右のすき間をかい木で調整後、残りのねじで本固定してください。

※枠に水糸を張る等して枠が曲がっていないことを必ず確認してください。



上枠取付け上のお願ひ

※上枠取付けねじの締めすぎにご注意ください。上レールを変形させると本体の開閉不具合につながります。本体吊込み時に動きが悪い場合は、ねじをゆるめてください。

11.5以上

まぐさ かい木
縦枠 上枠
まぐさ 上枠
縦枠

上枠が持ち上がらないように枠接合部にかい木を入れます。

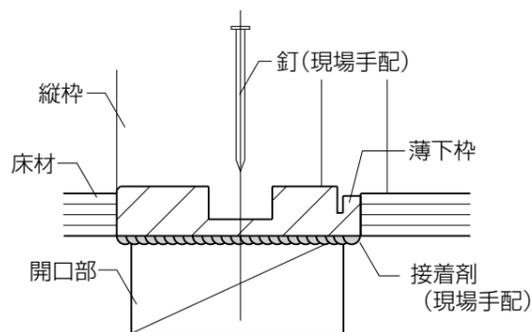
かい木 縦枠
柱

かい木は100mm以上を使用して木工用ボンドで接着してください。

■薄下枠の取付け(ツバ付・ツバなし薄下枠共通)

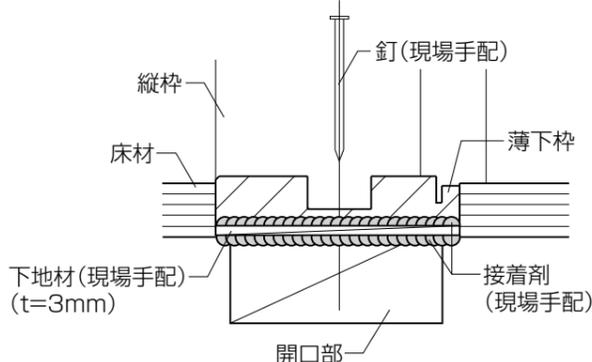
【床材厚さ12mm】

※必ず薄下枠に接着剤を付け、躯体に固定してください。



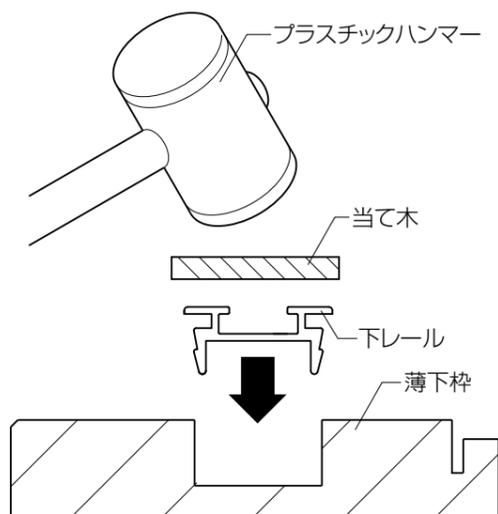
【床材厚さ15mm】

※必ず薄下枠と下地材に接着剤を付け、躯体に固定してください。



■下レールの取付け(薄下枠を使用する場合のみ)

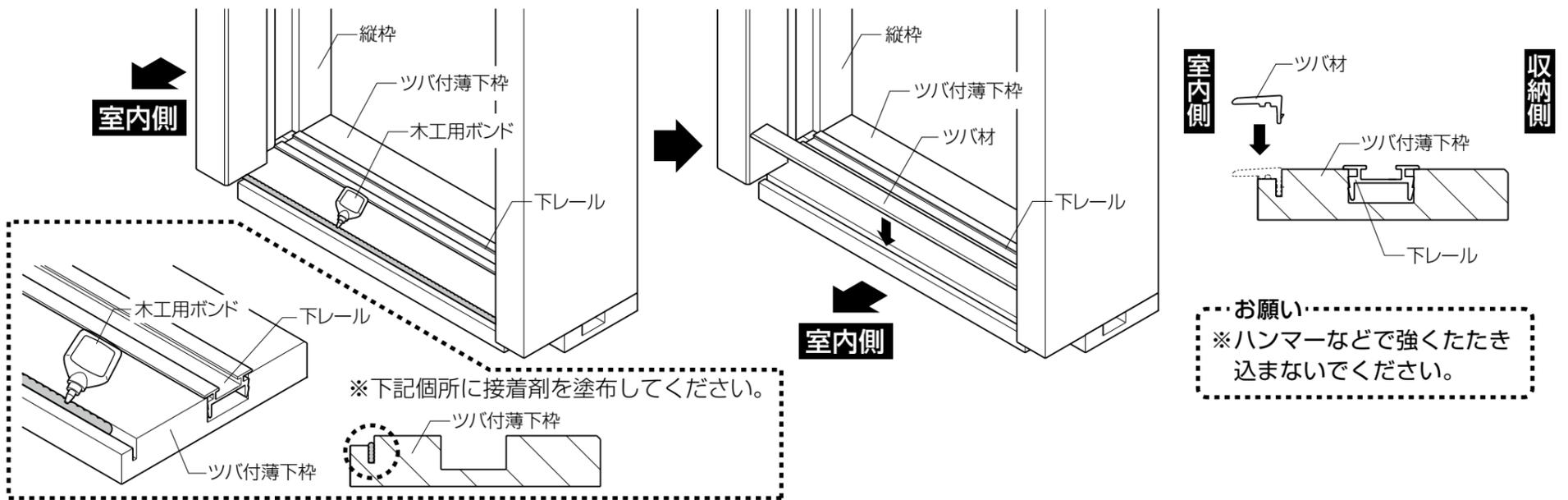
●薄下枠の溝にプラスチックハンマーなどでたたき込んで固定します。



※接着剤(現場手配)は、レール溝にガタのある場合に使用してください。

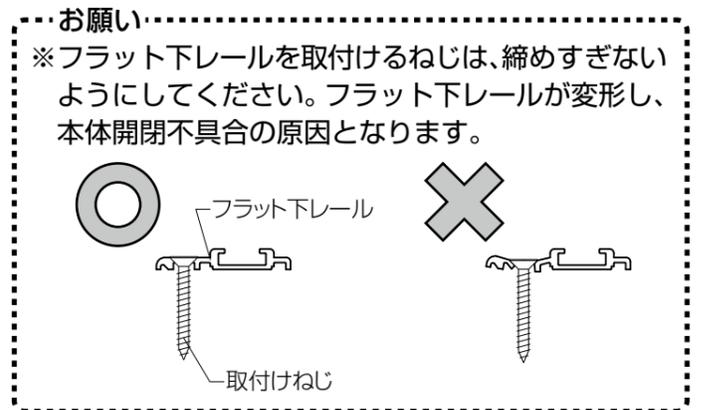
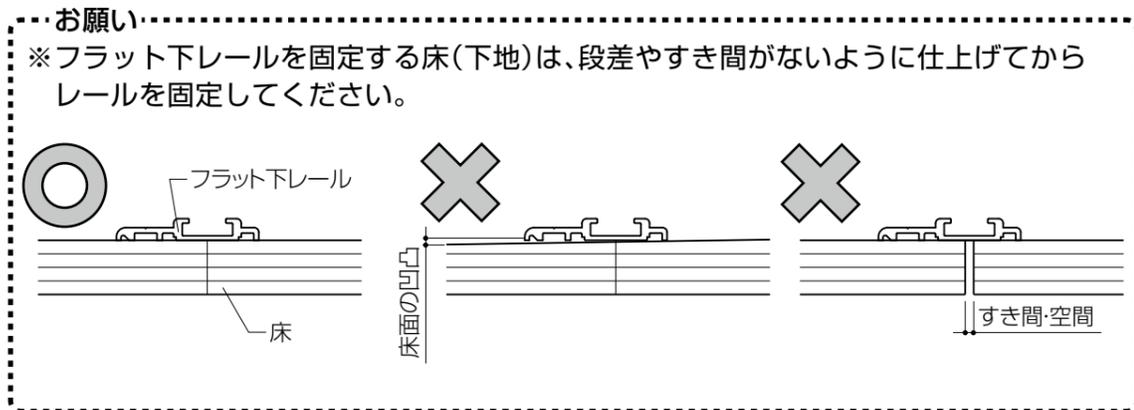
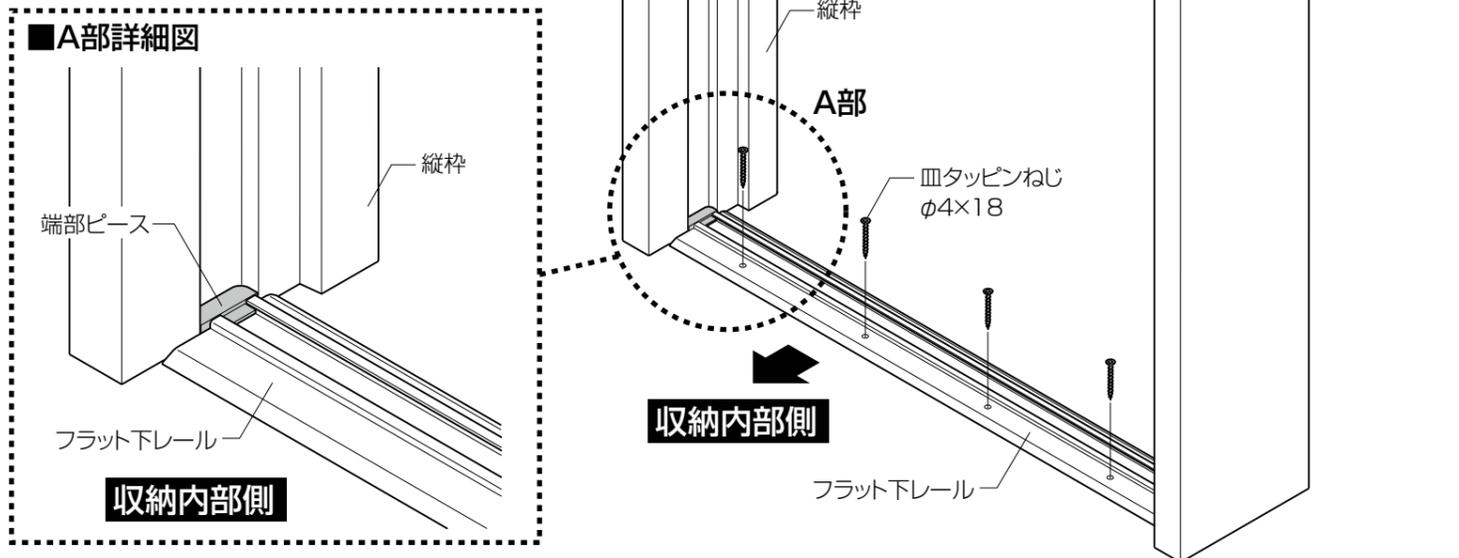
■ツバ材の取付け(ツバ付薄下枠を使用する場合のみ)

- ①現場でツバ材の寸法を開口に合わせて切断してください。
- ②ツバ付薄下枠の溝に木工用ボンド(現場手配)を溝全長に隙間なく塗布してください。
- ③ツバ材を溝に手ではめ込んでください。



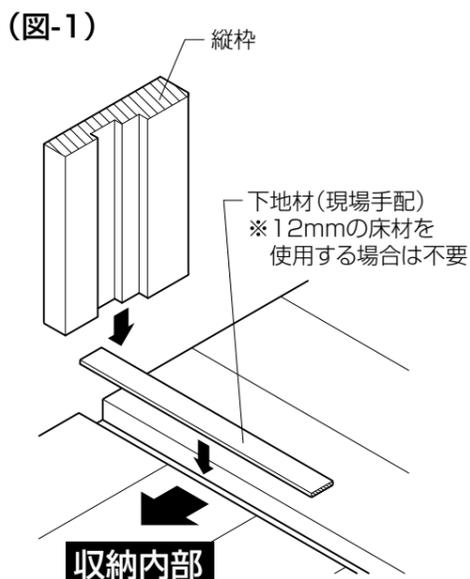
■フラット下レールの取付け

- ①A部詳細図のように、フラット下レールに同梱されている端部ピースをフラット下レールに取付け、縦枠戸じゃくり溝に合わせてはめ込み仮置きしてください。
- ②フラット下レールをねじ(皿タッピンねじφ4×18)で固定します。

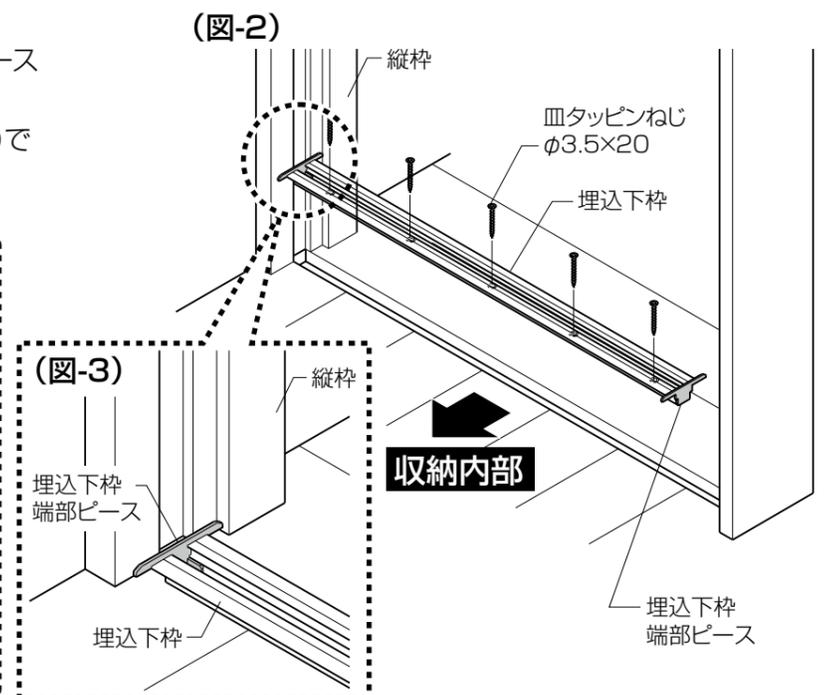
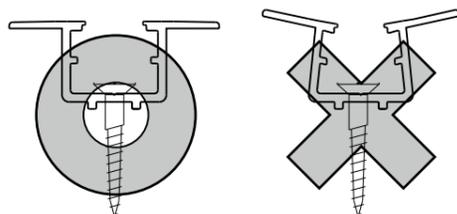


■埋込下枠の取付け

- ①(15mmの床材を使用する場合)下地調整材を床の開口部に取付けてください。(図-1)
- ②端部ピースを埋込下枠両端部に取付けた状態で床に埋込みます。(図-2) このとき、(図-3)のように縦枠の段差部にピースをあてて、位置決めをします。
- ③埋込下枠をねじ(皿タッピンねじφ3.5×20)で固定します。

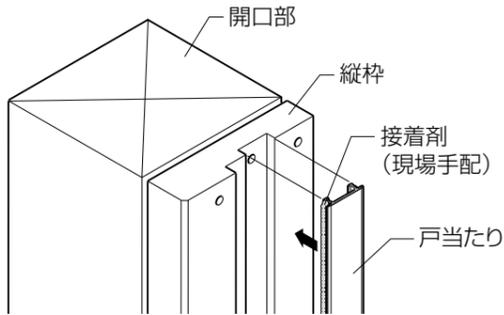


- 埋込下枠取付け上のお願ひ●
- ※埋込下枠取付けねじの締めすぎにご注意ください。埋込下枠を変形させると本体の開閉不具合につながります。本体吊込み時に動きが悪い場合は、ねじをゆるめてください。



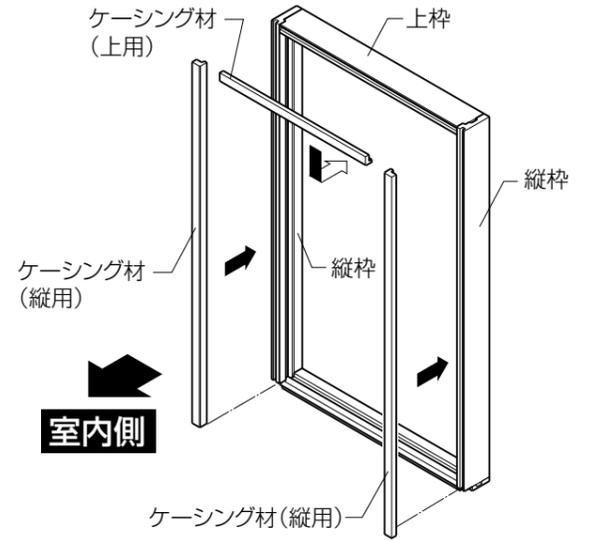
■戸当りの取付け

- ①戸当りに接着剤(現場手配)を付けて溝をふさぎます。
 ※戸当りは必ず、下枠取付け後に取付けてください。
 戸当りを先に取付けると、フラット下レールが施工できなくなるおそれがあります。
 ※戸当りが長い場合は、無理に入れずに必要量を切詰めてください。
 ※戸当りの接着は、必ず枠の建付け完了後に行うようにしてください。



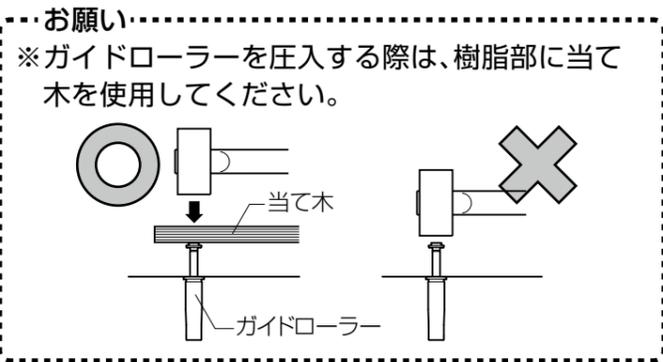
■ケーシング材の取付け (ケーシングタイプのみ)

- ※壁材・床材を仕上げしてからケーシング材を取付けてください。
 ①別梱のケーシング材を現場寸法に合わせて切断します。
 ②枠のケーシング溝へケーシング材を差込みます。
 ③ケーシング溝とケーシング材裏面に接着剤を塗布し、ケーシング材を固定します。
 ※仮止めする場合は、専用かくし釘をご使用ください。

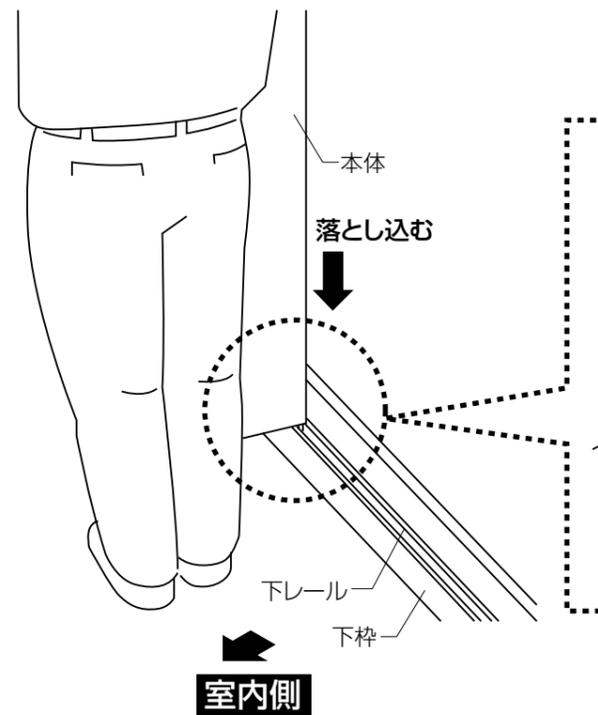
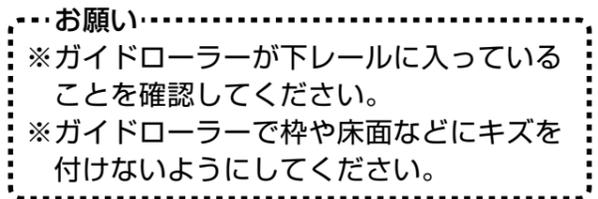


■本体の吊込み

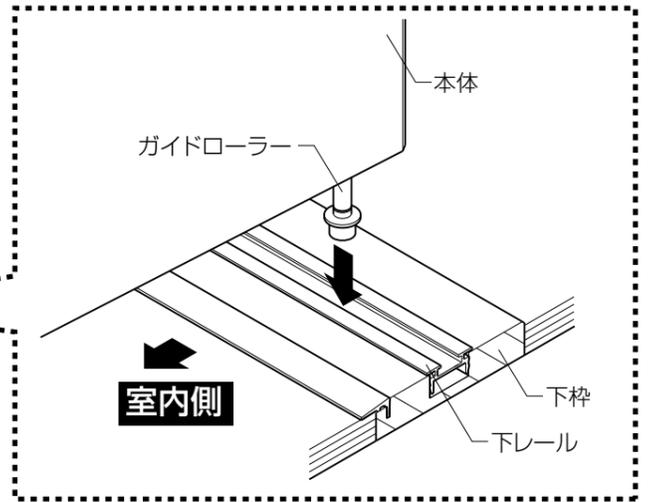
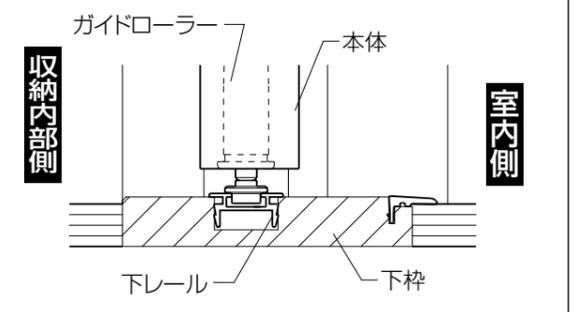
- ①ガイドローラーを本体下部の加工穴に圧入します。
 ※ミラータイプの本体は、1つの枠の中に、1枚のみとしてください。



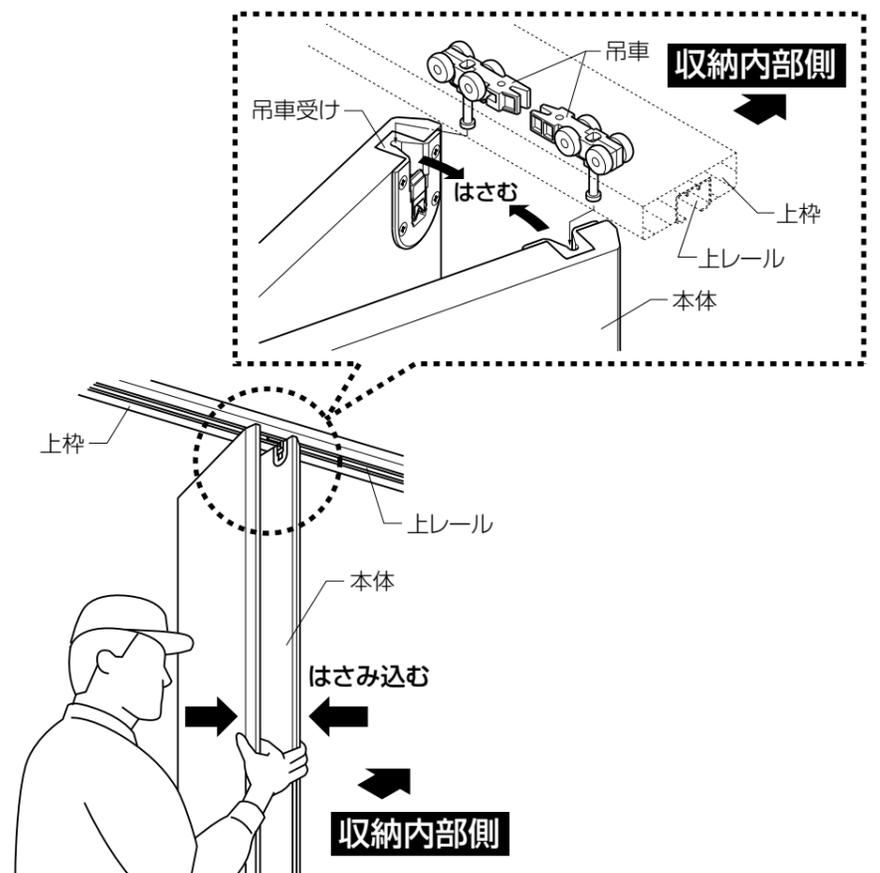
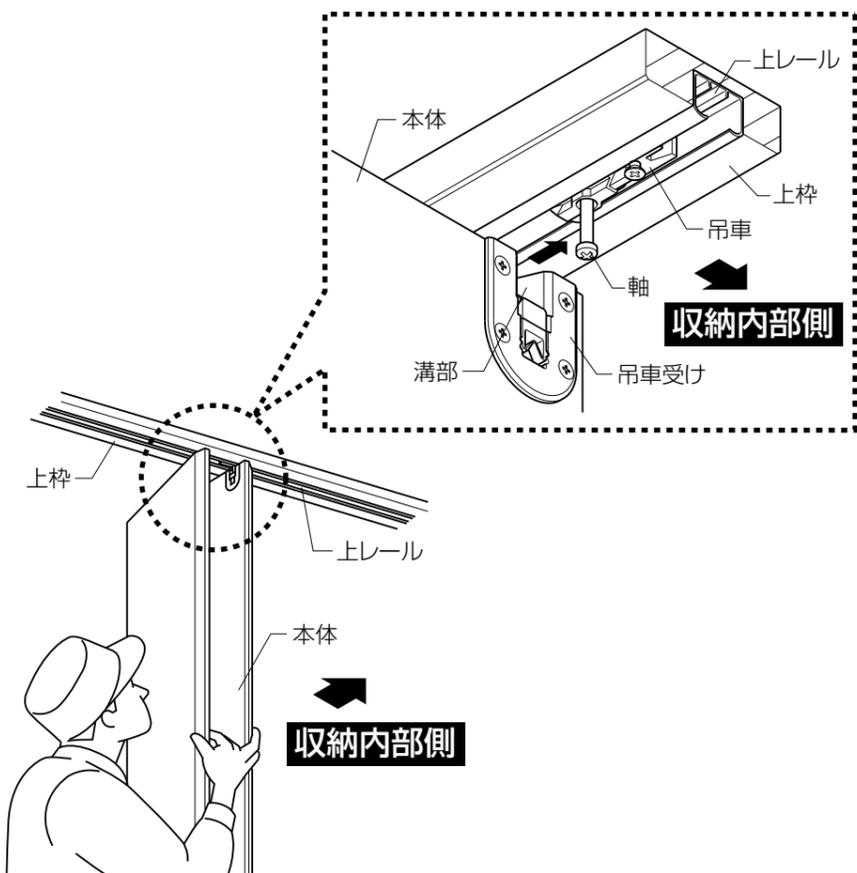
- ②ガイドローラーを下レールへ落とし込みます。



■薄下枠を使用する場合



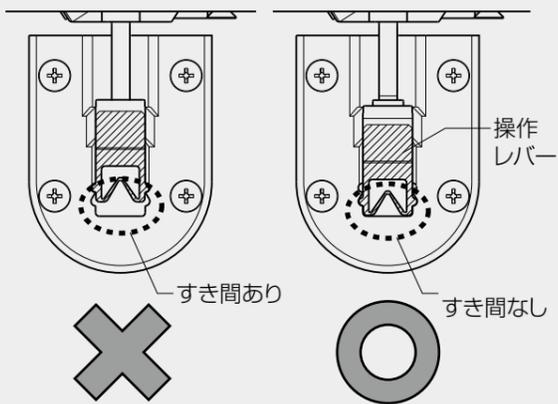
- ③本体上部の吊車受けの溝部に、上レールに取付けた吊車の軸を差込みます。 ④本体で左右からはさみ込むようにします。



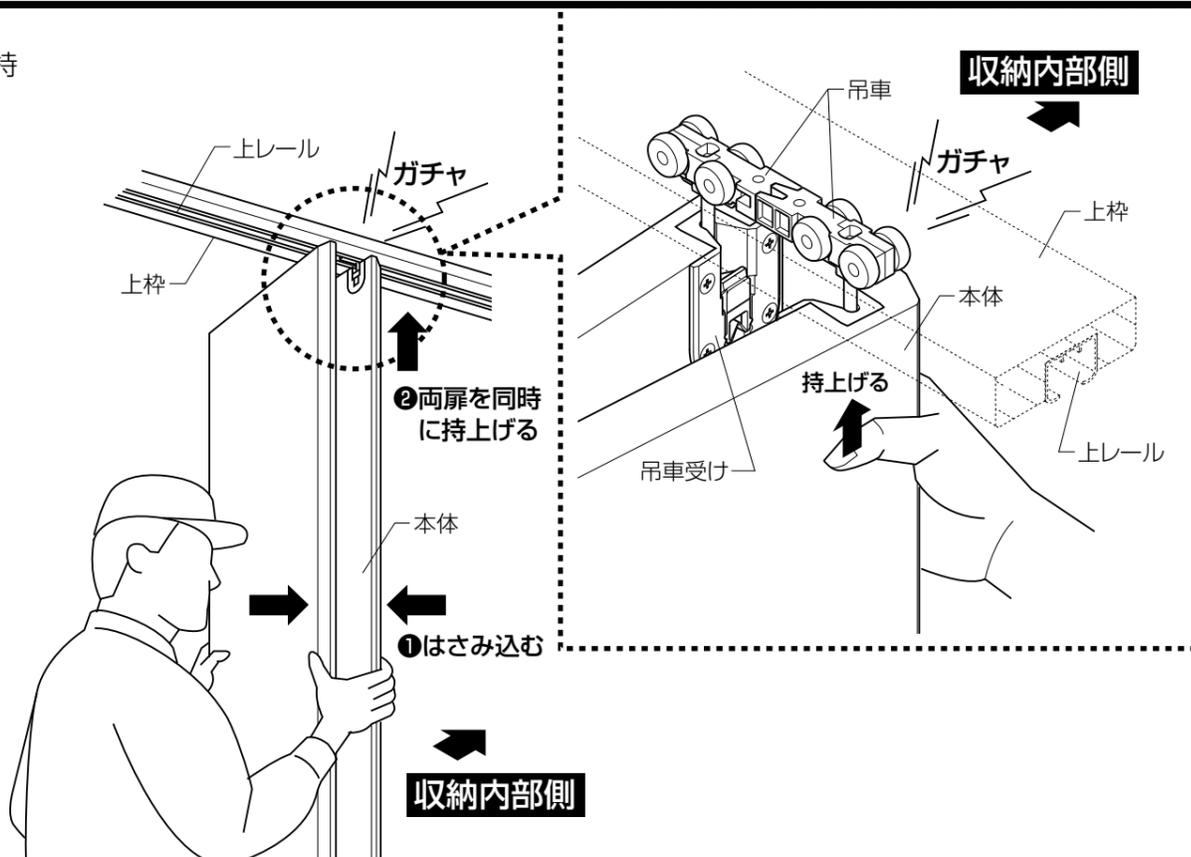
⑤本体をはさみ込んだまま、「ガチャ」と音がするまで上に持上げてください。吊車受けと吊車の軸が固定されます。

▲ 注意

●吊込み後、本体をゆすって外れないことを確認してください。吊込みが完了していないと本体が脱落するおそれがあります。

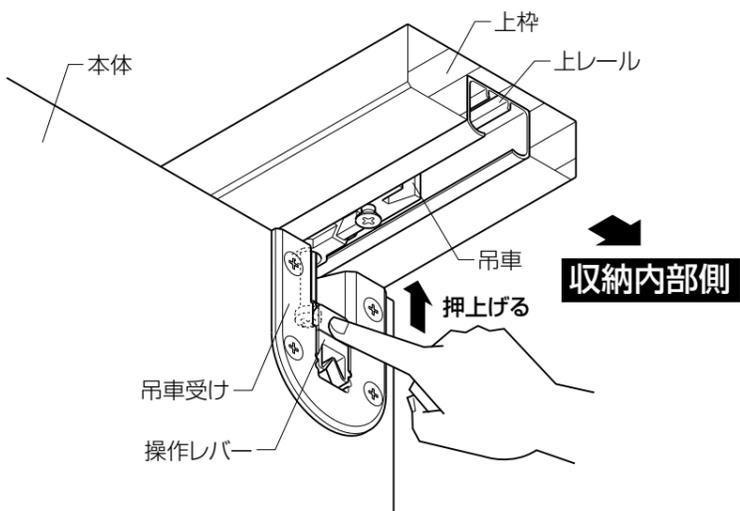


※吊込み完了は、操作レバーが下に下がっている状態です。(すき間なし)

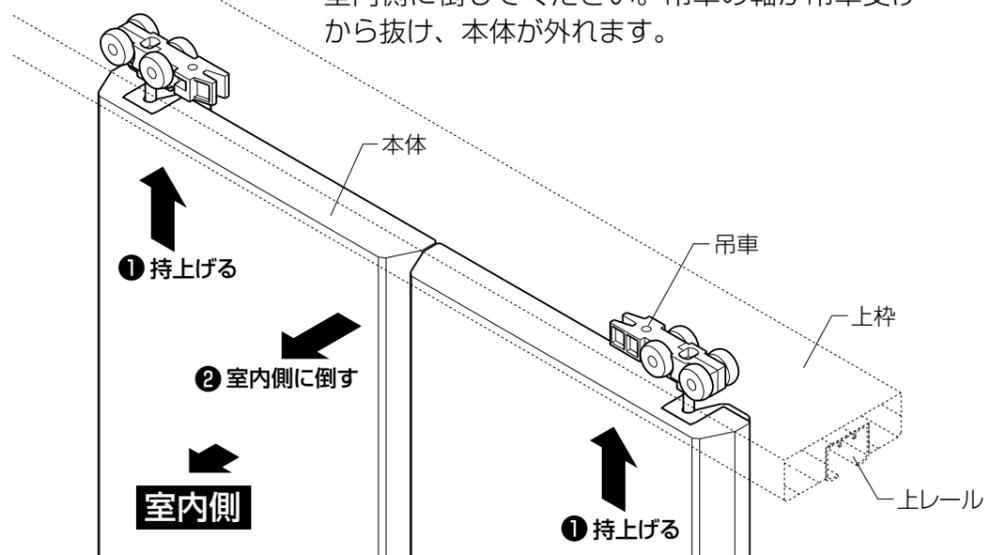


■本体の外し方

①本体上部の吊車受けの操作レバーを、固定されるまで上に押上げてください。



②本体を開いた状態で、本体を上を持ちながら室内側に倒してください。吊車の軸が吊車受けから抜け、本体が外れます。



■把手の取付け

※2枚の本体の裏面に把手取付け用の下穴が中間位置まであけてあります。把手を取付ける側の本体の下穴を貫通(φ4.5)してください。下穴をあける際には、本体裏側にあて木をし、バリがでないようにしてください。

【把手レスデザインの場合】

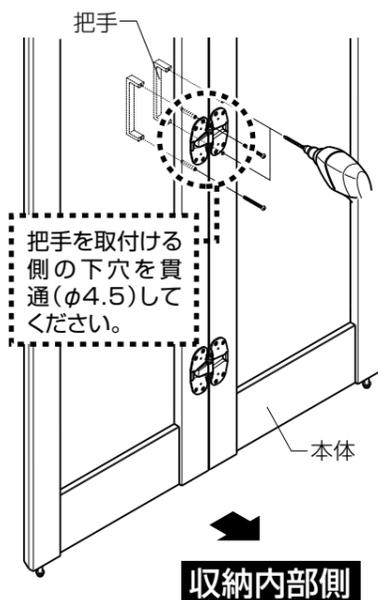
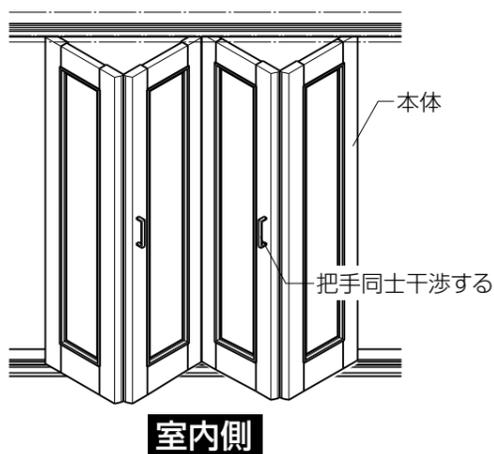
※把手の取付けはありません。

【把手の位置について】

※ミラー付本体の場合、ミラー側の本体には把手が付きません。

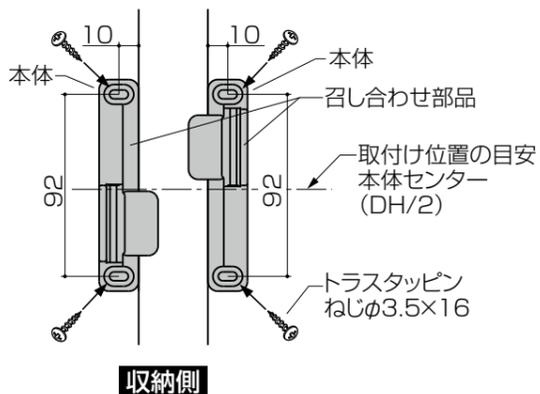
●●● 把手取付け時のお願い ●●●

※フリータイプの時に本体を折った状態で、向かい合わせになる本体をそれぞれに把手を取付けると、把手同士が干渉してキズが付くおそれがあります。



■本体召し合わせ部品の取付け

※本体中央部に召し合わせ部品を取付けます。図の取付け寸法を目安とし、下穴(φ2.5×16)をあけ同梱のねじにて取付けてください。

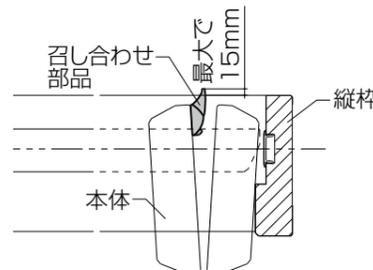


●召し合わせ部品

W12~W18M	
W24~W27M	
W34	

【納まりについて】

本体裏側の召し合わせ部品は、枠端部から最大で15mmはみ出します。収納内部側に棚や収納部材を配置する場合は枠から15mm以上離し、召し合わせ部品と干渉しないようにして下さい。



お願い
※中央部の取付け位置は、隣り合う本体の段差が、目立つ位置に取付けてください。

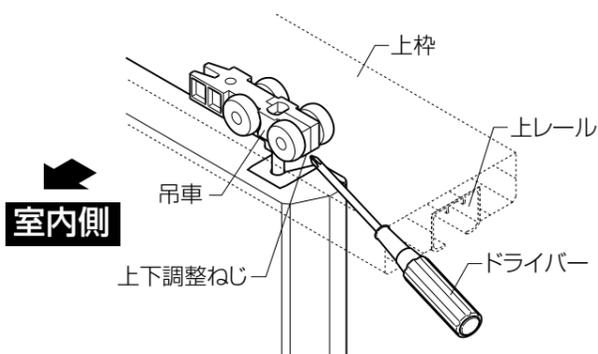
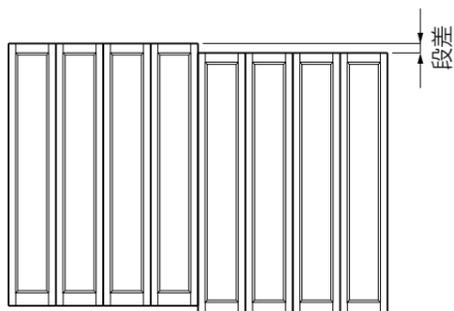
収納側

■調整

※本体の段違い(上・下)を調整します。

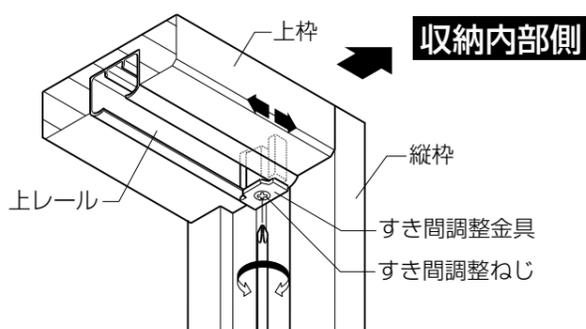
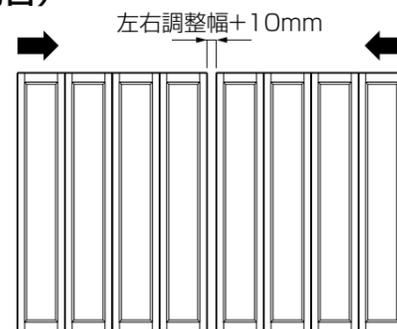
【段違い(上・下)の調整】

- 本体の取付け後、上下の目地が合っていない場合、左右の吊車の上下調整ねじをドライバーで回し調整してください。(上下調整量+6mm -0mm)



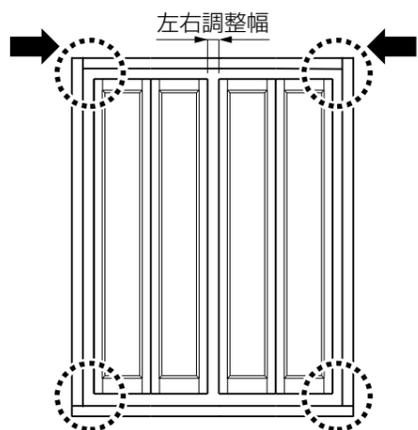
【すき間(左・右)の調整】(フリータイプの場合)

- 本体間のすき間が大きい場合、上レールの端部(左右)に付いているすき間調整金具で調整できます。すき間調整ねじをドライバーで回し、調整してください。すき間調整ねじを右に回すと、すき間が小さくなります。
注)すき間調整金具は、上レールの左右に付いています(W07・08は、片側のみ)ので、左右均等に調整してください。

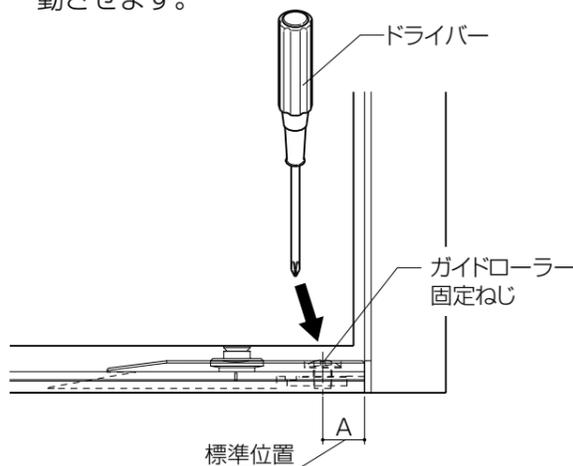


【すき間(左・右)の調整】(ピボットタイプの場合)

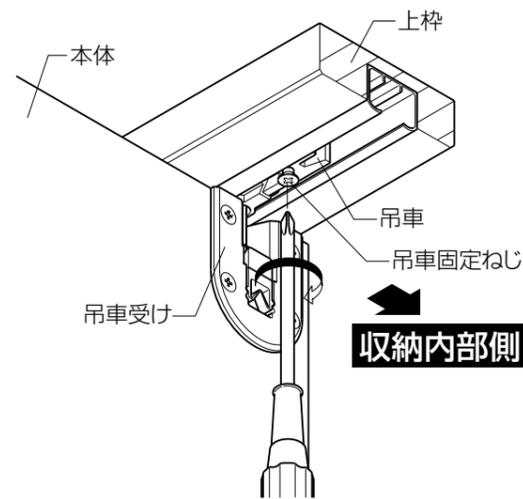
- ガイドローラー固定金具(本体用部品セット同梱)の取付け方法は【フリー→ピボットの変更】を参照してください。
- 本体間のすき間が大きい場合、吊車及びガイドローラー固定金具で左右調整を行います。



- 本体をずらしてガイドローラー固定金具の固定ねじをプラスドライバーでゆるめて移動させます。

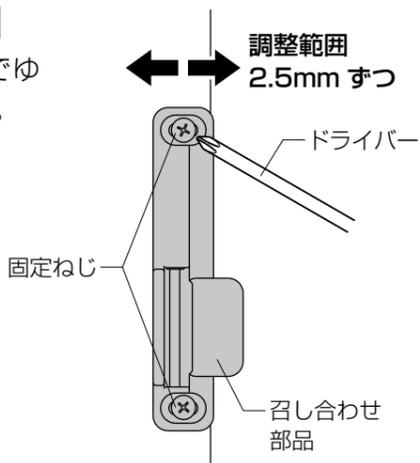


- 吊車固定ねじをドライバーでゆるめて移動させます。



【召し合わせ部品の調整】

- 固定ねじをドライバーでゆるめて調整してください。

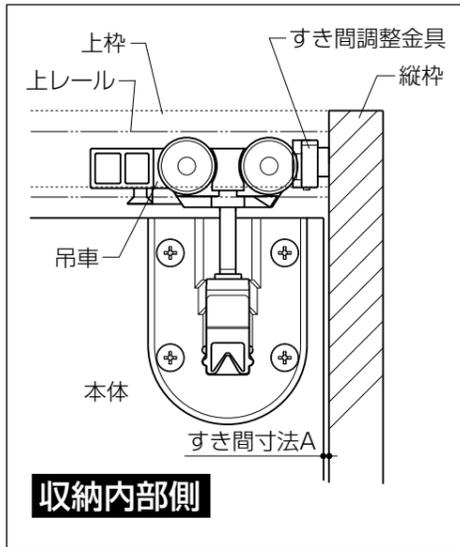


【フリー→ピボットの変更】

●本体上部の固定

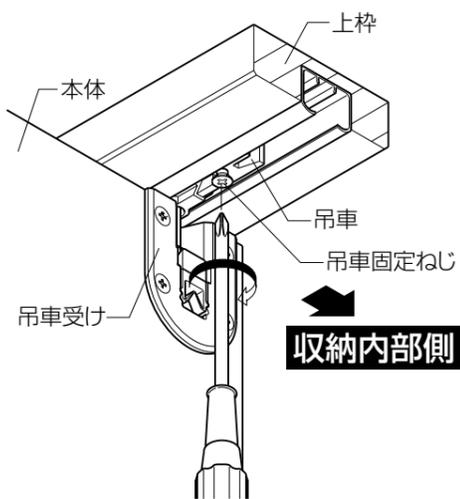
- ①本体をピボットにしたい位置まで移動させます。
- ②固定したい本体側の上部吊車に付いている「吊車固定ねじ」を回し、吊車が固定されるまでねじを回します。
- ③本体を左右にゆすって本体が固定されたかどうかを確認します。

	すき間寸法A(mm)
本体1Pの時(W07,08)	3.5
本体2Pの時(W12,13,16,18)	4
本体3Pの時(W24,26,27)	3.5
本体4Pの時(W34)	3.5



【ピボット→フリーの変更】

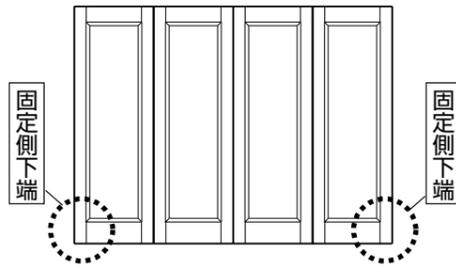
- ①吊車の吊車固定ねじを、ねじの回転が重くなるまでゆるめてください。緩める量が少ないと吊車の動きが悪くなり開閉不具合の原因となります。
- ②ガイドローラーをガイドローラー固定金具から外し、ガイドローラー固定金具の固定ねじを緩めてレールから外してください。この時、ガイドローラーは必ず下レールにはめ込んでください。



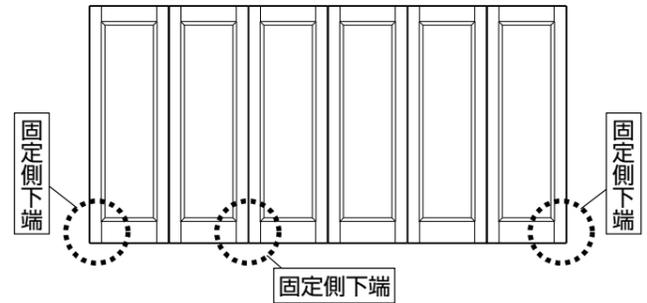
●本体下部の固定

※ピボットタイプとして本体を使用する場合は、ガイドローラー固定金具(本体用部品セット同梱)を用いて本体固定側の下端を固定してください。

●本体2体固定の場合

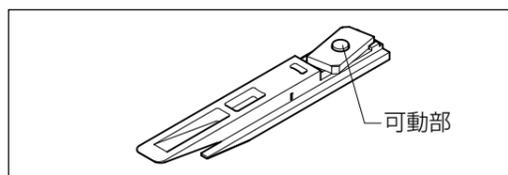


●本体3体固定の場合



- ①本体を正しい位置に移動させて、本体垂直がでているか確認します。
- ②ガイドローラー固定金具可動部を下図のように長手方向に向けます。

●ガイドローラー固定金具

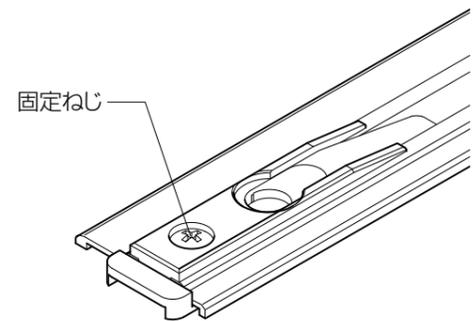


●ガイドローラー固定金具使用数量

	数量
本体1体固定の場合	1個
本体2体固定の場合	2個
本体3体固定の場合	3個
本体4体固定の場合	4個

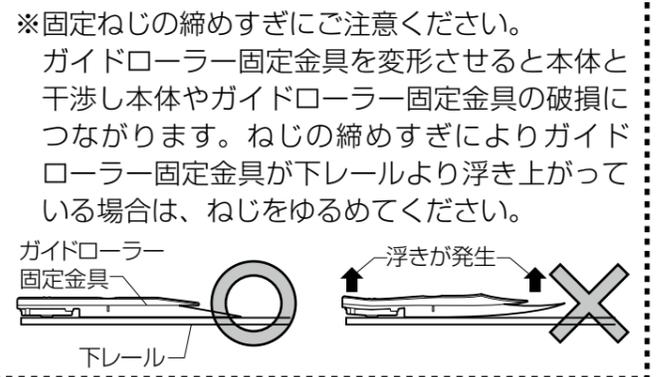
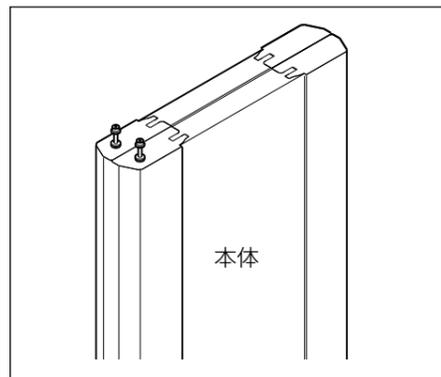
- ③ガイドローラー固定金具可動部を長手方向に保ったまま下レールに取り付けます。

固定ねじをプラスドライバーにて締め付けてください。



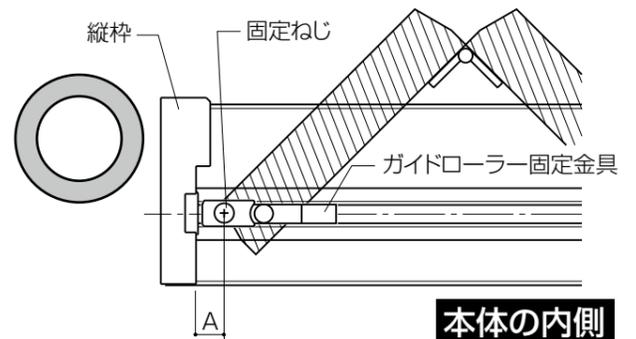
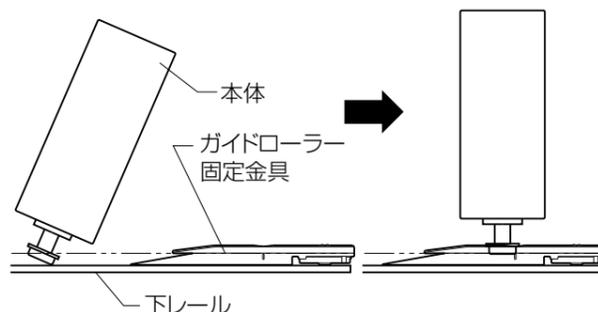
- ④本体のガイドローラーをガイドローラー固定金具に取り付けます。

1. 下図のように本体をたたみます。
2. ガイドローラーがガイドローラー受けにはまる(「カチッ」と音がする)まで本体を立てます。
3. 別の本体も同じ手順で吊込んでください。

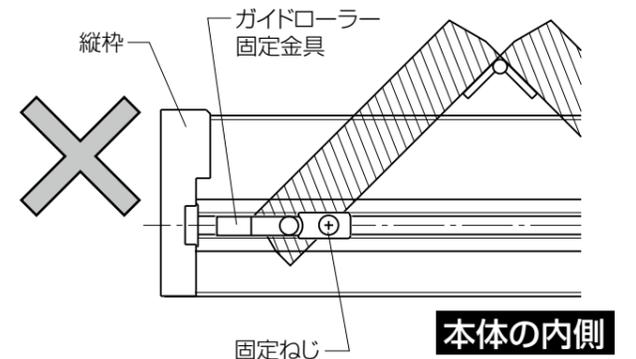


- ⑤ガイドローラー固定金具の取付け向きは、下図のように固定ねじが本体の外側になるよう、取付けてください。ガイドローラー固定金具の固定位置は、右図を参照してください。

- ⑥固定ねじをプラスドライバーで右に回します。ガイドローラー固定金具が動かないよう固定されたかどうか、確認してください。



▲固定ねじの中心を示す。



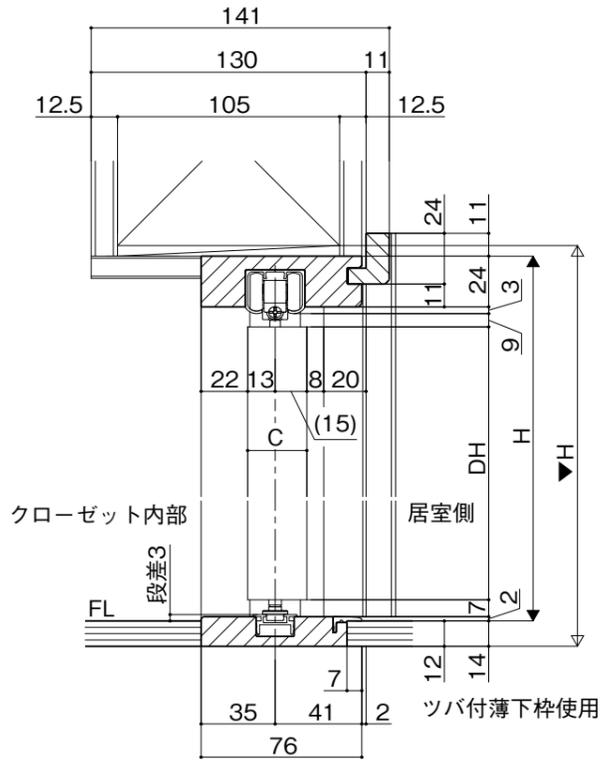
固定ねじの中心までの寸法	A
W12,13,16,18の場合	13.5
上記以外の場合	13

■納まり図

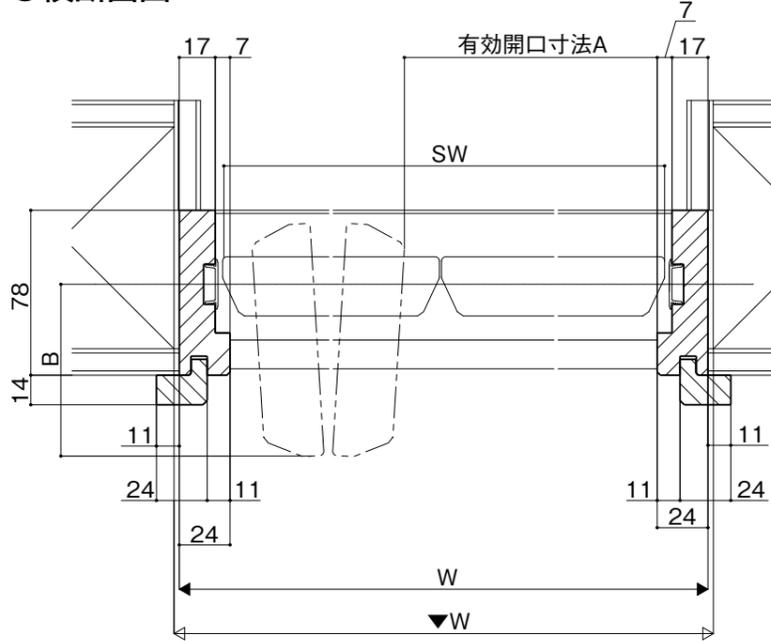
■クローゼット折れ戸ユニット ケーシング付

基本 寸法 (mm)	W呼称	07	08M	12	13M	16
	W(SW)	734(693)	824(783)	1183(570)	1323(640)	1643(800)
	W呼称	18M	24	26	27M	34
	W(SW)	1823(890)	2443(800)	2581(846)	2713(890)	3428(846)
	H呼称	20	23			
H(DH)	2023(1978)	2306(2261)				

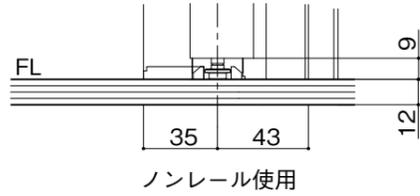
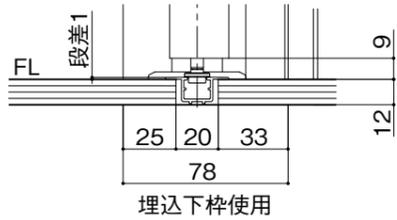
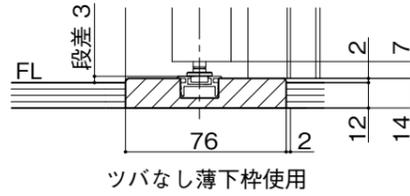
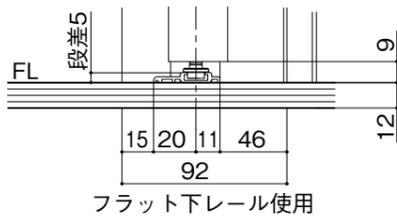
●縦断面図



●横断面図



W呼称(枠外寸法)	A寸法	B寸法
W07(734)	566	322
W08M(824)	657	367
W12(1183)	894	261
W13M(1323)	1034	296
W16(1643)	1355	376
W18M(1823)	1534	421
W24(2443)	2033	376
W26(2581)	2171	399
W27M(2713)	2303	421
W34(3428)	2896	399



※本体厚C寸法は、デザインにより異なります。(26.9~33.5)